

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらり水島 あかり (放デイ)		
○保護者評価実施期間	R7年12月9日		R7年12月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	R7年12月10日		R7年12月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さん本人の強みや興味に沿った支援を大切にしていること。	放課後等デイサービスは、利用日数や時間が限られているサービスだが、その中で職員はそれぞれの専門性を活かしながら利用児を評価し、支援に結び付けている。	個別支援計画の会議に、左記の専門性の視点をより盛り込んだ内容に出来るよう、話し合う。
2	ご家族が前向きに子育てできるような応援を惜しまないこと。	利用毎に引き継ぎや定期的な懇談を設け、家族の意見を十分に聞き共有する時間を大切にしている。 事業所内や法人内セラピストが、保護者の相談に応じられるような仕組みが出来ている。	幼児期だけでなく学齢期の保護者が学んだり情報を得たりする機会を、児発センと共に企画していく。
3	お子さんやご家族にとって、安心できる心地よい環境や関係を目指していること。	安心安全に利用できるための準備、職員間での認識合わせ、取り組み後のフィードバック等。	各職員のスキルアップを図ることで、事業所全体のチームアプローチや雰囲気の下上げを行っていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境設備の課題。	施設の老朽化。 設備の老朽化。 介助スキル不足。	修繕や手すり・カーテン・ドアの設置等実施。 今後、幼児～学齢期が利用可能なUDトイレや手洗い場等への改修を検討。 福祉用具の導入。
2	限られたスペースでの運営。	利用児数に対しての必要なスペースは基準を満たしているが、車いす・バギー・歩行器を使った児の移動を伴う場合は、狭く感じる。	共有できる部屋を活用して活動や年齢ごとに過ごすよう工夫している。
3	地域との交流の機会。	利用児が小1～中2の年齢幅で、今後進級・進学・就労への移行支援が求められる。	役割活動・お仕事体験等を始めており、今後は販売体験等、幅広い経験ができるよう計画している。(公益活動の参加や法人内の就労事業所とのコラボ等)